

時系列のPTデータを用いた銀座来訪者の行動特性の変化

Change of Behavioral characteristics of the Ginza Visitor using Time Series PT data

毛利雄一* 森尾 淳** 河上翔太*** 小林巴奈**** 寺部慎太郎*****

By Yuichi MOHRI, Jun MORIO, Shota KAWAKAMI, Hana KOBAYASHI and Shintaro TERABE

1 はじめに

1968年に実施された第1回のパーソントリップ調査（以下、PT調査）以降、東京都市圏PT調査は、2008年までに40年に渡る5回の調査が実施されてきた。このように蓄積された時系列の東京都市圏PT調査データを用いて、過去から現在に至る交通行動の変化とその要因を歴史的に捉えることは、今後、想定される社会経済情勢やライフスタイルの変化等に対応した政策展開を考えるうえで、その意義は大きいと考える。本稿では、その分析例として、銀座来訪者を対象とした交通行動の変化に関する分析結果を示す。具体的には、PT調査データを活用し、銀座来訪者の来訪目的、個人属性、交通手段、滞在時間等の時系列変化を捉えるとともに、他の繁華街との比較を通じて、銀座来訪者の行動特性を分析する。

2 銀座の特徴と現状

1603年、徳川家康の江戸幕府とともに誕生した銀座は、商人や職人の町として栄えた。その後、明治時代になり、1872年の銀座大火によって煉瓦街が整備され、また、横浜と新橋をつなぐ日本初の鉄道開通によって、西欧からの輸入商品や新しい商品を扱う商人たちが次々と店を開き、多くの人が集まる街となった。大正時代には、ショッピングだけではなく、ウィンドウショッピング等、歩くことを楽しむ街（銀ぶら）として有名になり、1923年の関東大震災による銀座復興とデパートの進出、日比谷での映画・劇場街の開発等により、日本一の繁華街として発展した。戦後も早くから復興を目指し、堀の埋め立てと首都高速道路の整備、都電の廃止と地下鉄の開業、銀座通りの大改修と歩行者天国等、様々な取り組みを実施し、社会変化に対応してきた。21世紀に向けては、ティファニーをはじめとする世界の有名ブランドの銀座出店が相

次ぎ、その後、銀座4丁目交差点に面する三越の東側街区と一体化開発等、大規模な開発、近年でのファストファッションブランドの進出等、銀座はいつの時代も、その時代に応じて、最も勢いのある商売が出店する街として進化してきた¹⁾。一方で、通りごとに容積率、高さ、壁面後退を定めた地区計画「銀座ルール」の制定、さらに、これを発展させ、銀座にふさわしい景観やデザインの指針として示した銀座デザインルールの発行等、銀座の街づくりに向けた協議会活動も、我が国の先進的な取り組みとして実施されている²⁾。

2007年の商業統計調査に基づき、東京都の商業集積地区を比較すると、小売業事業所数の1位は銀座地域であり、売場面積も1位である。また、銀座の年間販売額は年間4.8兆円を超え、東京の商業における中心的な役割を果たしている。このように、現在の銀座は、百貨店や多種多様な専門店が集まり、商業・業務機能が集積した繁華街であると言える。

3 時系列のPTデータに基づく銀座来訪者の特性

1978年、1988年、1998年、2008年に実施された4時点の東京都市圏PT調査データに基づいて、銀座来訪者の行動特性の変化を把握する。1968年の第1回のPT調査は、第2回（1978年）以降の調査対象地域が異なることから、今回の分析対象から除くこととした。なお、分析対象となる東京都市圏PT調査データは、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県南部の対象地域の居住者の平日1日の行動である。そのため、対象地域居住者の休日の行動、外国人を含めた対象地域以外の行動は含まれていない。また、ここでの対象とする銀座とは、銀座1丁目～8丁目の地域を対象としている。

4時点の時系列のPTデータに基づく平日の男女合計の銀座来訪者は、図－1に示すように、1978年、

*企画部長 博士（工学） **道路・経済社会研究室 主任研究員 博士（工学） ***社会基盤研究室 研究員
****東京工業大学大学院 修士課程 *****東京理科大学土木工学科 教授 博士（工学）

1988年に30万以上の着トリップ（内々トリップを含むため着トリップと呼ぶこととする）があったが、1998年には減少に転じ、27万トリップとなった。しかし、2008年には、女性の来訪者数の増加によって、全体の来訪者は30万トリップに増加している。1998年までは男性の来訪者の比率が高かったが、2008年には、女性の来訪者の比率が男性を上回る結果となっている。この女性の来訪者の増加の大きな要因としては、図-2に示すように、私事目的による来訪の増加によるものである。また、図-3に示すように、銀座以外の新宿、渋谷、浅草、お台場の他の繁華街^注における私事目的の着トリップの推移と比較すると、1998年～2008年の10年間で、他の繁華街には見られない大幅な増加を示している。特に、1998年まで、銀座は渋谷と同程度の着トリップ数であり、新宿の着トリップ数を下回っていたが、2008年には、新宿への着トリップを上回る結果となっている。

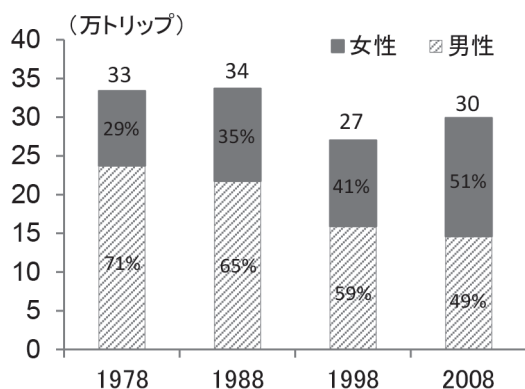


図-1 男女別銀座着トリップ数

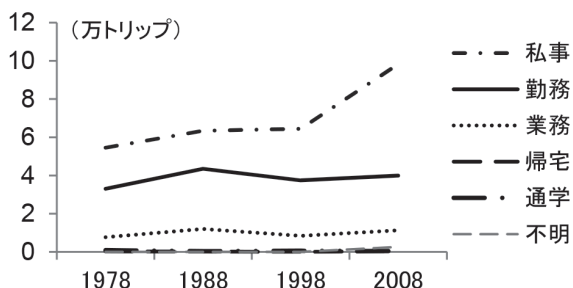


図-2 女性の目的別銀座着トリップ数

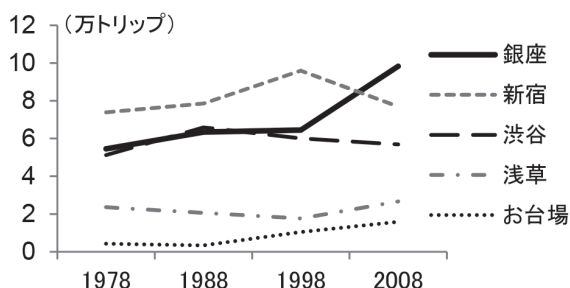


図-3 女性の繁華街別私事目的着トリップ数

以降では、私事目的の女性来訪者に着目し、私事目的を、自宅から私事活動を行う場合の「自宅-私事目的」とそれ以外の「その他私事目的（例えば、勤務先からの私事目的）」に分けて、(1) 女性の職業、(2) 女性の年齢階層、(3) 女性の交通手段、(4) 女性の着時間帯について分析を進めることとする。

(1) 女性の職業別トリップ数

図-4に示すように、「自宅-私事目的」の女性来訪者は、就業者、主婦、無職のトリップ数の増加がみられるが、1998年～2008年の10年間で急激に増加している傾向は現れていない。一方で、図-5に示すように、「その他私事目的」の女性来訪者は、1998年～2008年の10年間で、就業者、主婦、無職のトリップ数が大きく増加している。特に、就業者においては、1万トリップ以上の増加が示されている。

(2) 女性の年齢階層別トリップ数

図-6に示すように、「自宅-私事目的」の女性来訪者の年齢階層には大きな変化はないものの、時間的な変化とともに、20歳代から30歳代へのシフト、60歳以上の高齢者へのシフトがみられる。一方で、図-7に示すように、「その他私事目的」の女性来訪者の年齢階層は、1998年～2008年の10年間で、20歳代前半のトリップ数が大きく減少し、20歳代後半から65

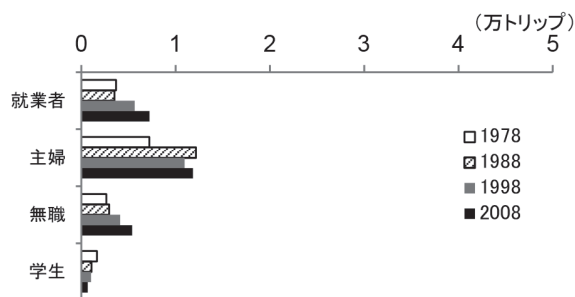


図-4 自宅-私事目的銀座着トリップ数 (女性)

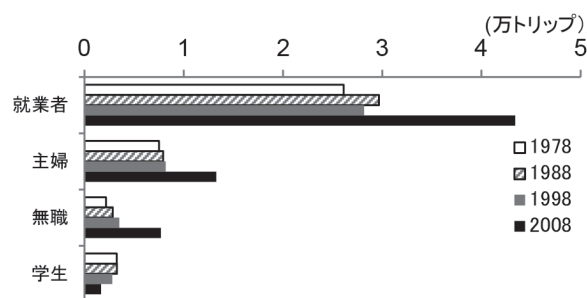


図-5 その他私事目的銀座着トリップ数 (女性)

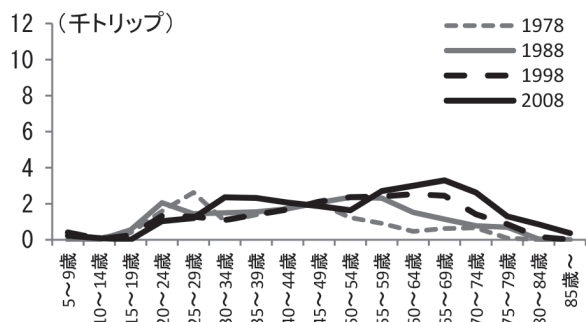


図-6 女性の年齢階層別「自宅-私事目的」の銀座着トリップ数

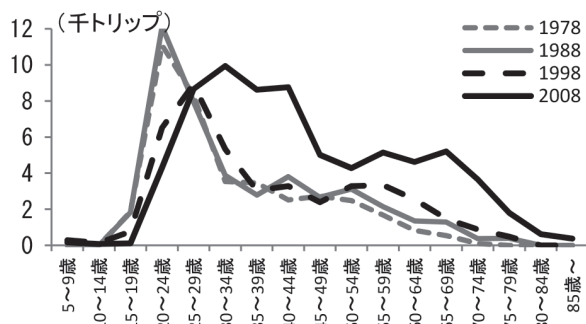


図-7 女性の年齢階層別「その他私事目的」の銀座着トリップ数

歳以上の高齢者のトリップ数が大きく増加している。特に、35歳～45歳未満、65歳以上の世代の来訪者が大きく増加している。

(3) 女性の交通手段分担率

「自宅-私事目的」の女性の銀座来訪者の交通手段分担率をみると、表-1に示すように、1978年から、地下鉄を中心とする鉄道利用が大部分を占めている。1978年には9.0%を占めていた路線バス利用、1988年に11.4%に増加した自動車利用は、時代とともに大きく減少している。また、2008年では、僅かではあるが、自転車利用が増加している。「その他私事目的」の女性の銀座来訪者の交通手段分担率は、表-2に示すように、1978年から、徒歩が約50%以上、鉄道利用が約40%と大部分を占めている。

(4) 女性の着時間帯別トリップ数

女性の銀座来訪者の着時間帯別トリップについても、同様に「自宅-私事目的」と「その他私事目的」に分けて、その特徴を捉える。「自宅-私事目的」の女性

表-1 女性の「自宅-私事目的」の銀座着トリップ交通手段分担率

	1978年	1988年	1998年	2008年
鉄道	73.0%	80.5%	88.9%	86.0%
路線バス	9.0%	3.4%	2.0%	3.1%
自動車	8.9%	11.4%	5.9%	3.0%
オートバイ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自転車	0.0%	0.0%	0.6%	3.1%
徒歩	9.2%	4.7%	2.5%	4.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表-2 女性の「その他私事目的」の銀座着トリップ交通手段分担率

	1978年	1988年	1998年	2008年
鉄道	40.7%	40.8%	37.8%	38.4%
路線バス	0.8%	1.0%	1.4%	1.2%
自動車	7.4%	5.9%	4.5%	3.4%
オートバイ	0.0%	0.5%	0.0%	0.2%
自転車	0.0%	1.0%	0.8%	1.0%
徒歩	51.2%	50.7%	55.4%	55.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

来訪者は、図-8に示すように、10時～11時に銀座に訪れ、概ね2時間程度の滞在という結果であり、時系列の大きな変化は見られない。それに対して、「その他私事目的」の女性来訪者は、図-9に示すように、就業者を中心に、昼食時（12時）と仕事終わり（18時）に銀座に訪れ、滞在時間は概ね1時間程度と短時間の滞在となっている。時系列的な変化をみても、その特徴が顕著になってきている。

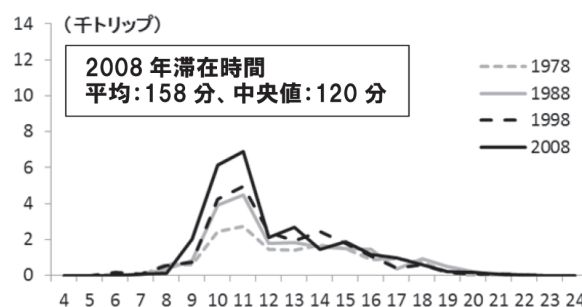


図-8 女性の銀座への着時刻別「自宅-私事目的」トリップ数

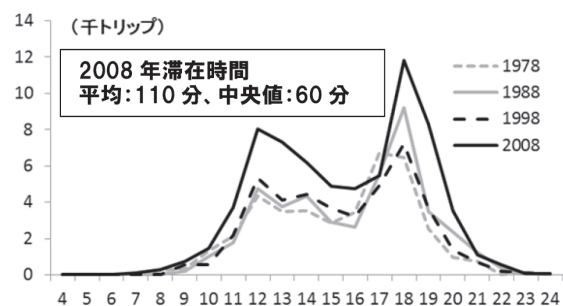


図-9 女性の銀座への着時刻別「その他私事目的」トリップ数

同様に、2008年のPT調査データに基づいて、女性の着時間帯別トリップを銀座と他の繁華街を比較すると、図-10に示すように、「自宅-私事目的」において、10時～11時に銀座に来訪する女性の特徴は、第2の新宿を大きく上回る傾向を示している。

「その他私事目的」の銀座への女性来訪者についても、図-11に示すように、他の繁華街と比較して、昼食時（12時）と仕事終わり（18時）の2つの時間帯にトリップ数がより顕著に集中していることが確認できる。特に、昼食時の来訪者が多いことは、他の繁華街とは大きく異なっている。銀座は、あらゆる種類の有名な飲食店が数多く集積し、女性に対する銀座のランチが大きな人気を集めていることが伺える。

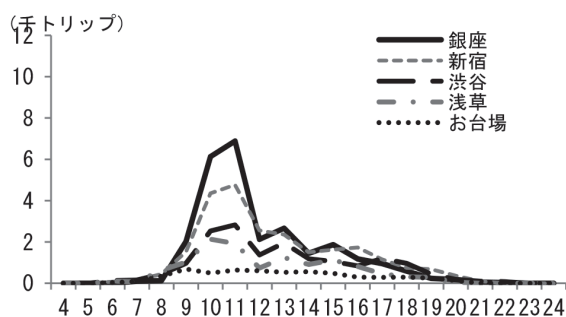


図-10 女性の繁華街別着時刻別「自宅-私事目的」
トリップ数 (2008年)

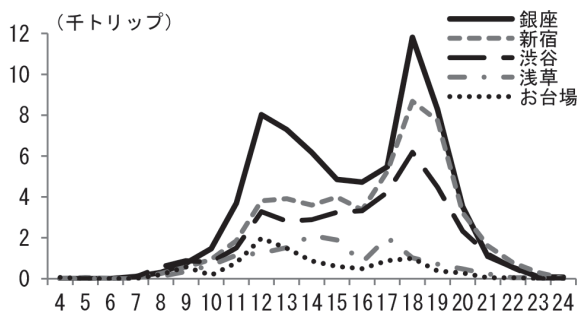


図-11 着時刻別その他私事目的トリップ数 (女性) (2008年)

4 おわりに

本稿では、時系列の東京都市圏PT調査データを分析例として、主として女性の私事目的に着目した銀座来訪者の行動特性の変化を捉えた。

近年の女性の銀座来訪者の増加特性は、他の繁華街とは異なる増加を示していること、35歳～45歳未満、65歳以上の世代の「その他私事目的」での昼食時（12時）と仕事終わり（18時）の時間帯が増加していること等が把握された。但し、より詳細かつ具体的な行動の変化を解明していくためには、社会経済情勢の変化に対応した女性のライフスタイルの変化との関係（例えば、女性の就業率の上昇や自由時間の増加等）、因果関係を定量的に示すためのモデル分析等、より深度化したデータ解析や分析が必要となる。また、先に示したように、銀座をはじめとする今後の商業地を分析するためには、休日、外国人を含めた対象地域以外の行動等も捉えていくことが必要である。そのためにも、今後は、ビッグデータの活用等、より多様なデータの組合せによって実態把握と分析を進めていくことも重要であると考えられる。

注) 銀座以外の他の繁華街については、新宿:新宿駅東口周辺、渋谷:渋谷駅西口周辺、浅草:浅草駅・浅草寺周辺、お台場:台場駅周辺におけるPT調査データの小ゾーンを設定して集計している。

参考文献

- 1) GINZA OFFICIAL: <http://www.ginza.jp/>
- 2) 竹沢えり子:「銀座らしさ」の継承と創造:銀座デザイン協議会が提起するもの、日本不動産学会誌／第22巻第3号、pp.89-94、2008